

063号 (2021年11月27日)

目次

- 第17回全国大会報告
- 「第2回オンライン講座『日本の協同学習』」報告
- 『協同と教育』への投稿募集中
- 各地の研究会・勉強会
- 出版情報
- ショートレター(会員からの投稿記事)

第17回全国大会報告

大会テーマ：「令和の日本型学校教育」と協同教育

本学会初のオンラインによる全国大会を2021年10月23日(土)・24日(日)に開催しました。2日間を通して146名(会員135名・一般参加11名)のご参加を頂きました。会期中、7つの自由研究発表分科会(発表件数25件)、ワークショップ3件、ラウンドテーブル4件のご発表を頂きました。大会初日の総会では、国内外の協同教育ならびに本会の発展に永年ご尽力頂いた杉江修治前会長ならびに石田裕久前副会長のお二人に名誉会員の称号を贈らせて頂きました。大会2日目の午前には、本学会全国大会初のシンポジウムも開催しました。高橋純先生(東京学芸大学)、久川慶貴先生(春日井市立藤山台小学校)、柴田好章会員(名古屋大学)の各氏にご登壇頂き、水野正朗会員(東海学園大学)の司会進行のもと、『令和の日本型学校教育』と協同教育」と題して活発な議論を展開して頂きました。シンポジウムの参加者数は100名を超えました。「GIGAス

クール構想」という時流に翻弄されることなく、たしかな実践感覚・現場感覚に根差した実践報告とともに、これを理論的に意味づけ、次代に求められる協同学習のあるべき姿を共有できたと思います。

初のオンライン開催には、通常の前対面での開催とは異なる段取りが必要でした。まず大会参加者にのみ大会当日の配信URLを周知しなければなりませんので、会員各位には事前の参加申込ならびに大会参加費の事前振込へのご協力をお願いしました。申込時に会員番号が判らず、困惑された方もいらっしゃったようです。今後のこともございますので、学会事務局にお問い合わせ頂き、厳重な管理をお願い致します。また発表者ならびに司会者の皆様には、事前の接続テストにご協力頂きました。多くの方がZoom等のツールによるオンラインミーティングに慣れておられたとは言え、特に司会者の皆様には各ルームの管理者としてもご苦勞をおかけしました。厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルスの影響により、2020年度の全国大会を中止した影響を懸念しておりました。しかし、2019年の高知大学における第16回大会と比べまして

も、参加者数、発表件数とも微減に留まっており、ホッと胸を撫でおろしているところです。これもひとえに会員各位のご協力の賜とっております。また今大会では合計7つの出版社様より多大なるご支援を頂きました。さらにオンライン大会の実現につきましては、(株)EPOCH-NET社様の全面的なバックアップを頂きました。今大会の成功に向けてご尽力頂いた全ての皆様に重ねて厚く御礼申し上げます。

感染状況の収束が見通せない状況です。次回大会では対面でお目にかかれることを期待したいと思います。ありがとうございました。

日本協同教育学会第17回大会実行委員会

委員長：高旗浩志(岡山大学)



大会日程

	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00
10月23日(土)	09:00-09:30 開会式	10:00-12:00 ワークショップ1・2 ラウンドテーブル1・2	12:00-13:00 昼食	13:00-14:00 総会 発表分科会	14:00-15:00 自由研究発表	16:45-18:00 総会決起会			
10月24日(日)		9:30-12:00 大会シンポジウム	12:00-13:00 昼食	13:00-15:00 ワークショップ3 ラウンドテーブル3・4 自由研究発表		13:30-14:00 閉会式			

JASCE

「第2回オンライン講座『日本の協同学習』」報告

2021年9月18日(土)に第2回オンライン講座「日本の協同学習」を開催しました(写真)。本講座は、学会設立15周年を記念して会員の皆さまに配本した『日本の協同学習』(2019、ナカニシヤ出版)を1章ずつ学ぶものです。初回の第13章「日本協同教育学会15年の歩み」に続き、今回は第1章「バズ学習を源とする協同学習の理論的、実践的展開」を執筆者の杉江修治先生(本学会前会長、中京大学名誉教授)より学びました。参加者は会員46名、未会員16名の62名でした。

本講座は、参加者に該当章の予習をお願いしています。それを踏まえ、まず、グループになり自己紹介の後、予習の際に生じた疑問、興味関心について話し合いました。

その後、杉江先生から「バズ学習の理論」についての話題提供がありました。前半は、バズ学習の理論の要点とそれが日本の協同学習につながっていく経緯の詳細を学びました。非常にわかりやすく熱い思いのこもったお話しの中に、実践の背景にあった貴重なお話や裏話を伺うことができました。杉江先生の先行研究や実践者へのリスペクトから、信頼関係が教育の基盤であることを改めて確認いたしました。理論に謙虚であり常に模索されている研究姿勢は見習うべきだと思っただ次第です。

続いて、グループで感想を話し合い、後半は、「バズ学習の実践について―バズ学習に見る協同と実践の可能性―」として話題提供がありました。さまざまな実践について伺い、バズ学習、協同学習の理論の実践可能性の幅広さを理解することができました。杉江先生は現場を訪れる都度、



「協同学習の布教に來たのではありません。現場が実践に取り入れれば役立つであろう情報提供に來たのです。そこに一貫性を持たせるのは先生たち自身です」といった趣旨の断りを入れるようで、協同学習が机上の空論ではなく、深く実践に根差した理論であること、また協同の理念を持ち続けて努力を続ける必要があることを痛感しました。

再度グループに戻り感想を交流した後、全体交流の場で質疑が行われました。閉会後の情報交換会にも多くの方の参加があり、時間内に収まりきらなかった杉江先生への質問が飛び交い、有意義な講座になりました。

次回、第3回オンライン講座(第2章・個集研と協同学習)の開催は、2022年2月26日(土)の予定です。詳細については、今後ニューズレターならびに学会HPでご案内いたします。皆様のご参加をお待ちしております。

問い合わせ先: 研修委員会
(kenshu@jasce.jp)

『協同と教育』への投稿募集中

『協同と教育』への投稿を随時受け付けています(次号は第17号です)。投稿受理から査読を経て採択が決定されるまでに通常数ヶ月以上を要します。みなさまの積極的な投稿をお待ちしております。

各地の研究会・勉強会

(大阪地域)

協同学習を用いた看護教育研究会

◇本研究会は、2014年9月に発足し8年目を迎えました。そこで、2021年9月より関東・中部・関西・沖縄地区にも企画・運営担当者を配置し、研究会代表の緒方と連携して企画・運営をしていくこととしました。9月は関東地区、11月は中部地区の企画・運営で開催しましたので、ご報告致します。

◇9月開催の報告(関東地区の企画・運営担当: 氏原葉子・菊原美緒・鈴木康美・長峰久美子)

「協同学習を用いた看護教育研究会」第39回目を、9月11日(土)14:00~16:00にオンラインで開催し、25名の方が参加されました。テーマは「協同学習の基本-COVID-19禍でいかに学ぶか-」について、看護教育の現状、参加者への事前アンケートの結果を踏まえて、鈴木康美先生(埼玉県立看護大学)が話題提供されました。その後、協同の精神や協同学習における教師の役割についての意見交換をしました。

COVID-19禍であっても、教員は講義・演習・臨地実習で学生に看護

JASCE



を何とか学んでほしいという熱い思いがありました。一方、現状の医療現場において、学びをつくる難しさに葛藤し、奮闘している学生や教員の姿が語られていました。オンライン学習で学生の様々な課題に直面している今こそ、学生とともに協同教育の精神を共有し、発動をする時ではないかと、お互いの工夫、意見交換に、勇気づけられた有意義な研究会となりました。

文責：菊原美緒

◇11月開催の報告（中部地区の企画・運営担当：織田千賀子・牧野典子）

「協同学習を用いた看護教育研究会」第40回目を、11月13日（土）14:00～16:30にオンラインで開催し、40名のご参加があり、新たな参加者として6名の方を歓迎しました。テーマは「ジグソー学習法」について、話題提供は藤田医科大学の浅岡裕子先生で、「協同学習実践への挑戦！～ジグソー学習法を用いた成人教育支援学習の展開～」について授業実践をご発表いただきました。

今回、参加者の事前アンケートの結果、展開方法について「あまり知らない」「知らない」方が15名（35%）でしたので、参加者が「ジグソー学習法」について理解したうえでディスカッションできるよう、最初に「ジグソー

学習法の起源や展開方法」について、藤田医科大学の織田がミニレクチャーを行いました。浅岡先生は、一方向の講義では学びに結び付かないことを経験され協同学習に取り組みました。今回の実践報告は、学生が「効果的な成人健康教育を実施するために必要な視点、看護師の姿勢」について学びを深めるための基礎知識の獲得を目的にジグソー学習法を用いられ、学生が知識を関連付けて思考できる授業構成でした。ブレイクアウトルームでは、①グループ編成の工夫、②学習成果の評価方法についてディスカッションしました。ジグソー学習法では、教師役としての学びが浅い場合、ジグソーパズルが完成しません。したがって、専門家グループでの学びあいがとても重要となります。学生が効果的に学習できるよう、1回のジグソーで完結せず連続性をもたせてジグソーを繰り返し用いることで学びを深められます。また、専門家グループでの学びあいの重要性を学生に理解してもらうと共に、複数の専門家グループが連携しあって学びあう機会など、様々な工夫と新たな挑戦をして、教育方法を検討し続けていきたいと思っています。

文責：織田千賀子

◇次回は、2022年1月29日（土）関西地区が企画・運営を担当します。

多くの方のご参加をお待ちしております。

連絡先：研究会代表 緒方巧（梅花女子大学 t-ogata@baika.ac.jp）

きょう探研（きょうどう探究型授業づくり研究会）

◇第4回の研究会〔通称：きょう探鍋パーティー〕

2022年1月23日（日）14:00～17:00。

Zoomによるオンラインでの開催。

きょう探鍋は参加者が具材（話題）を持ち寄り、グツグツと煮込む（対話を深める）ことにより、より深い味わい（学び）を得ることを目的としています。次回第4回は杉江修治先生をお招きします。そこで、なるべく対話の時間を多くとりたいと思い、ブレイクアウトルームの時間を中心にしたいと思います。

対話の機会を確保する観点から、参加人数を15名前後と制限させていただこうと思います。予定人数に達した場合はお断りさせていただく場合があります。何卒ご了承ください。先着順でお申し込みを受け付けます。以下の連絡先までお願いいたします。

申し込み・問い合わせ先：

代表 中村哲也（常磐会学園大学 nani7272@yahoo.co.jp）

JASCE

(岡山・中国方面)

協同学習研究会

◇12月4日(土)に予定しておりました岡山の協同学習研究会は諸般の事情により中止となりました。何卒お許しください。次回は2022年3月5日(土)を予定しております。改めてご連絡致します。

連絡先：高旗浩志(岡山大学教師教育開発センター takahata@okayama-u.ac.jp)

(九州地域)

協同教育研究所「結風」主催

◇第5回「ガーゲン研究会」を、9月25日(土)15時から17時の間、Zoomで開催しました。

今回は、「第8章：関係こそが教育のカギ」を読み解く会でした。参加者は29名でした。

(1) 挨拶・自己紹介

挨拶の後、Zoomの「ブレイクアウトルーム」を用いた仲間づくり(自己紹介)を行いました。自己紹介の内容は、氏名、所属、参加動機、予習の程度でした。

(2) Reflection(前回の感想をまとめた『通信』による振り返り)

一人一項目ずつ「Reflection」で気になった話題を提供し、ラウンドロビンを意識しながら交流しました。その後、全体討論も行いました。

(3) 課題文「第8章：関係こそが教育のカギ」の理解

LTD過程プラン8ステップに沿った予習に基づき、グループごとにミーティングを行いました。その後、ミーティングで残された問題点や疑問点などについて、全体で議論しました。「丁寧に内容理解をしていると、関連づけの時間が足りなくなった。」「実践的な内容になってきたので、みんな話したいことが溢れている。」「頭がフル回転した2時間だった。」などの感想が寄せられました。

17時からの情報交換会には12名の参加があり、今後のスケジュールについても話し合うことができました。第6回「ガーゲン研究会」は、11月27日(土)15時から開催、「第10章：組織-不安定なバランス」を読み解きます。

◇第53回「協同教育研究会」(旧・授業づくり研究会)は、12月4日(土)14時から開催予定です。

今回は、敬愛大学非常勤講師の坂東実子先生を講師としてお招きし、『わかる力を育てるための要約・作文トレーニング』について実践を踏まえながらご指導いただきます。

坂東先生のご専門は文学で夏目漱石の専門家です。ご著書に『漱石文学全注釈 7三四郎』(若草書房2018 共著)があります。また『大学生のための文章表現練習帳』(国書刊行会2013)の著者としても知られています。坂東先生の教育実践は定評があり、学会等での報告は高く評価されています。

以上、詳細は「結風」のホームページをご覧ください。

問合せ先：ご不明な点があれば、次までお願いします。

協同教育研究所「結風」office@yasunaga.me

Journal of Community Guidance and Research, Vol.37 No.3 (2020)

インドの学術雑誌における、協同学習の特集号(Special Issue on "Cooperative Learning")です。昨年に発行されたものですが、同雑誌に掲載された論文の執筆者の多くは、2019年に台北で行われた国際協同教育学会の発表者に該当し、本学会の会員による論文も含まれています。



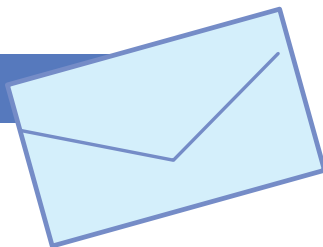
出版情報

ケーガン協同学習入門

協同学習のワークショップに参加した方なら誰でも、ケーガンの協同学習の定義や技法には馴染みがあると思います。ラウンドロビンをはじめ、スリーステップインタビュー(ちゃんと聞いてたよ)やタイムドペアシェア(お話タイム)などケーガン・ストラクチャと呼ばれる技法は、協同学習の初心者にとって強力なツールです。そうした技法の背景にある考え方や効果検証について、今まで邦訳されたものはありませんでした。それが遂に、ダイジェスト版であります。翻訳出版されました。参考文献としても使える一書です。

スパンサー・ケーガン 原著、佐藤敬一・関田一彦 監訳。大学図書出版。





協同学習を用いた看護教育の実践を 切磋琢磨しあう研究会の場と仲間たち

急速に進展するグローバル化、少子高齢化による人口構造の変化、地域間の格差の広がりなどの問題が急速に浮上し、地域包括ケアシステムの構築・多職種連携・チーム医療等が推進されています。看護者には様々な場面で人々の身体状況を観察・判断し、状況に応じた適切な対応が出来る看護実践能力が求められています(文部科学省,2017)。看護師として、複雑な課題に対応できるように看護基礎教育における学修環境を整え、協同的な学びを通して、コンピテンシー力を高めることが望まれています。

大阪地区では2014年9月に緒方巧先生により「協同学習を用いた看護教育研究会」が発足され、看護教員が協同学習を用いた看護教育実践について参加者と学び合い、看護教育の現場と研究会を往還できる学びの場があります。私も2015年から研究会に参加させていただく中で、多くの先生方と知り合うことができ、学生の成長を願い、ともに学び合い切磋琢磨する仲間存在に刺激を受けています。そして、授業実践での悩みや相談ごとを、話し合える協同の仲間がいる存在を大切に感じています。さらに、日本協同教育学会のワークショップや年次大会にも参加させていただき、協同の繋がりが深まっています。

研究会では、協同学習を用いた実践報告を拝聴し、新たな知見を得ると

ともに、自分自身の教育実践へのヒントを得る機会となっています。ディスカッションでは、何を言っても許される安心な場であり、話し合うことで、お互いが学び合っているという実感を得ることができます。私も研究会で実践報告をした際、参加された先生方が、その後の授業に活かしておられることを知った時はとても嬉しく感じ、もっと頑張りたいと思う気持ちが高まりました。また、杉江先生、関田先生、石田先生、安永先生を講師にお招きしての学習会も企画され、協同学習の理論を学ぶ貴重な機会を得ています。協同学習を授業に用いることで、学生が自分のことだけでなく、他者を尊重し気遣いができ、将来の看護師として備えるべき大切な力が育まれていると感じています。

現在、COVID-19の影響を受け、社会的に新しい生活様式へと変革が余儀なくされています。看護基礎教育においても、感染拡大を予防する対策の一つとして、リモート教育への急速な導入がみられました。さらに、臨地実習施設での実習が困難な場合、学内実習やリモート講義等に置き換えが必要な現状です。そのような中、どのように学生の学びの質を担保できるかが問題となりましたが、研究会では一早くオンライン化となり、困りごとや工夫点を参加者で共有することで、各自の授業実践に繋げることができました。研究会の仲間との繋がりが

が自身のエネルギー源となり、公私ともに厳しい状況を乗り越えることができましたと思います。対面での研究会開催も待ち遠しいのですが、オンライン開催であれば遠く離れていても参加が容易であるというメリットがあります。遠く離れていても、学生の成長を願うという点で、気持ちが同じ仲間存在は大きく、困難をチャンスに変えることに繋がっています。これからも対面およびオンライン開催で、先生方とお会いすることが楽しみです。

COVID-19の影響は短期間に留まらず、今後も感染拡大の波が及ぶことを予測した教育が求められます。このような状況下だからこそ気付く面も多く、工夫する力も湧いてくるように感じます。対象に「寄り添い、触れて、看る」という看護を行うことが困難な状況下で、距離があるからこそ心の繋がりが大きな意味を占めることを考える機会にもなっています。密を避けた演習、短時間での実習、リモート教育という新しい教育環境の中で、主体的・対話的・深い学びとなるように、学生の持てる力を信じ、学生が力を発揮できるように、協同の精神を大切にして関わっていきたいと思います。

(四條畷学園大学 看護学部
内田浩江)